

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

【観点到係る状況】

本学が養成しようとする人材像を、学士課程では「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人」（佐賀大学規則第 13 条及び学則第 2 条）と定めており、大学院課程については、「修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要高度の能力を養うことを目的とする」、「博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする」（大学院学則第 4 条）と定めている。

それらの達成状況は、単位修得状況、卒業論文（学位論文）、卒業（修了）状況、資格取得状況、就職状況などの指標や、学業の成果に関する在校生、卒業・修了予定者を対象とした各種アンケート（別添資料 6-1-①-1～2）及び就職先関係者からの評価などのデータを基に、観点 2-2-②で示した各部局の教育課程や教育方法等を検討する教務委員会、FD委員会等の組織（別添資料 6-1-①-3）で達成状況を検証し（資料 6-1-①-A）、観点 11-3-①で示す各部局及び大学の自己点検・評価体制により評価を行っており、検証・評価結果を部局評価の自己点検・評価報告書及び法人評価に関する自己点検・評価報告書（現況調査表等）として公表している（参照資料 6-1-①-7）。

資料 6-1-①-A : 教務委員会、FD委員会等の検討内容 (部局例示)

<p>1 開催状況 (委員会開催回数と開催期日を記載してください。)</p> <p>○開催回数 8回 (メール会議を含む) ○開催期日 4/1, 4/3, 5/29, 7/15, 7/30, 1/7, 1/13, 1/28</p>
<p>2 検討状況 (委員会の主な検討事項とその検討結果 (成果等) を箇条書きで記載してください。)</p> <p>1. 新任教員のFD研修会 (4月4日に実施。対象者6名が参加) 2. 平成19年度後学期学生による授業評価アンケート結果分析 3. FD講演会 (前学期) 日 時 : 7月30日 (水)、15:00~17:45 講 師 : 田中稔 氏 所 属 : 佐賀市環境下水道部環境センター 所長 演 題 : 佐賀市の環境行政 4. 学生による授業評価アンケート実施 (前学期) 5. 学生による授業評価アンケート実施 (後学期) 6. 平成20年度前学期学生による授業評価アンケート結果分析 7. 平成20年度共通アンケート (学部・大学院) 8. FD講演会・公開授業 (後学期) 日 時 : 1月13日 (火)、14:30~17:40 講 師 : 宮脇博巳教授 所 属 : 理数教育講座 授 業 科 目 : 理科講義および実験 (生物領域) 9. FD講演会 (後学期) 日 時 : 1月28日 (水)、16:10~17:40 講 師 : 鳥井智子 氏 所 属 : 佐賀大学非常勤講師 (フリーアナウンサー) 演 題 : 1月13日公開授業を踏まえたコミュニケーション論 10. 平成20年度前・後学期文化教育学部TA実施報告書作成</p>

3 議 題

- (1) 佐賀大学農学部編入学生の既修得単位の認定に関する内規の一部改正について
- (2) 3年次編入学生の既修得単位の認定について
- (3) 学業成績通知書の送付について (答申) について
- (4) その他 (順不同)
 - 1) 教育実習について
 - 2) 理工生物学実験について
 - 3) 平成20年度インターンシップ実施に伴う手続関係について (依頼)
 - 4) 大学入門科目への関与方法
 - 5) 大学教育委員会・教務専門委員会 (第1回: 5月1日) 議題の議題について (抜粋)
 - 6) 学生による授業評価 (前学期) について
 - 7) 大学教育委員会の教授会報告について
 - 8) 平成20年度の年度計画について
 - 9) 平成20年度のFD活動 (学部・大学院) について
 - 10) 平成19年度の授業評価と改善に関する実施報告書 (農学部・農学研究科) について

(出典: (上段) 平成20年度文化教育学部FD委員会活動報告書, (下段) 第3回農学部教育委員会議事次第)

別添資料 6-1-①-1：佐賀大学学生対象アンケート調査報告書（平成 20 年度）

別添資料 6-1-①-2：佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書（平成 20 年度）

別添資料 6-1-①-3：各部局の教務・FD関連委員会内規等（部局例示）

参照資料 6-1-①-ア：大学評価について ウェブサイト (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学業の成果に関する各種の指標や在校生，卒業・修了予定者，就職先関係者等による評価を基に，大学教育委員会，部局教務委員会，FD関連委員等において分析し，各部局及び大学の自己点検・評価体制により評価を行い，自己点検・評価報告書として公表しており，学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像に照らして，その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われている。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位修得，進級，卒業（修了）の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

単位修得については，「成績判定等に関する規程」(参照資料 6-1-②-ア) に基づき，合否を判定している。単位修得の状況は，学士課程では教養教育科目が 83%，学部専門教育科目は 76～98%，大学院課程では 78～100%となっている（資料 6-1-②-A）。また，教員免許を中心として，各種資格を取得している（資料 6-1-②-B）。

卒業論文又は修士論文の内容・水準については，各学部及び研究科規則（参照資料 6-1-②-イ～ウ）に基づき，教授会及び研究科委員会で審議し，認定を行っている。博士課程の学位論文については，「学位規則」(参照資料 6-1-②-エ) に則って審査することとなっている。

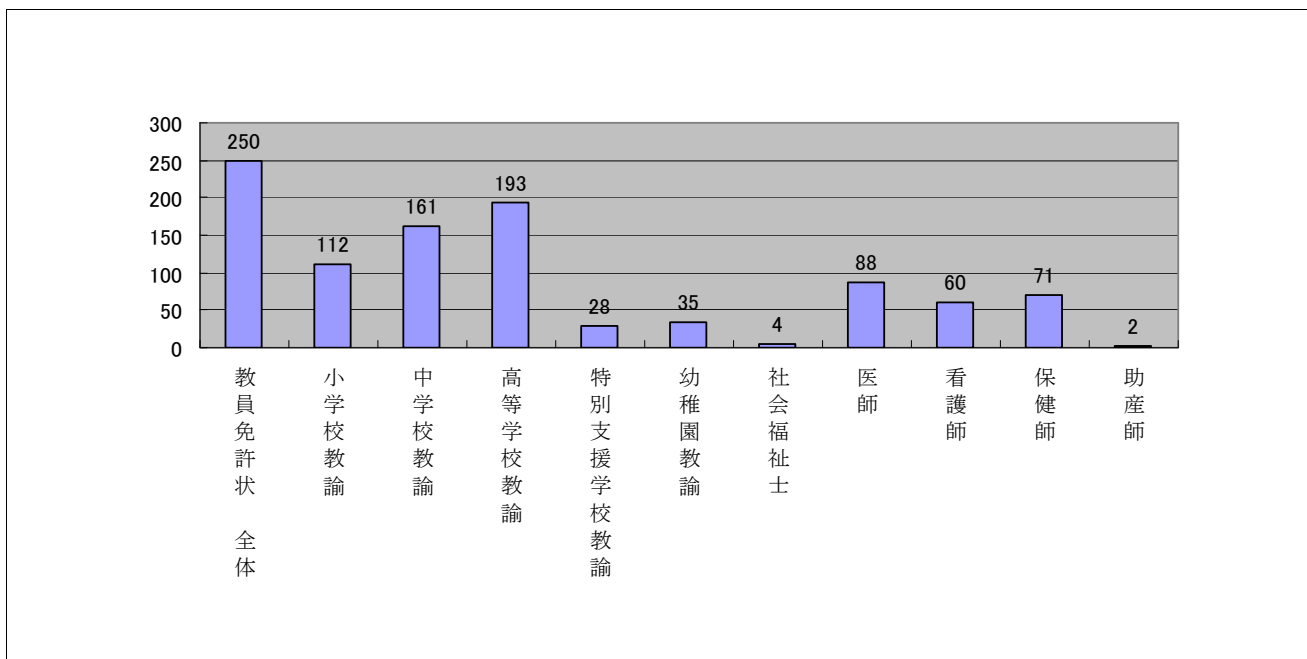
学生による学会発表・論文発表等には，査読付きの学術誌での論文掲載，学術奨励賞の受賞など，教育の成果や効果を示す研究活動の実績が上がっている（資料 6-1-②-C～D）。

資料 6-1-②-A： 単位修得率（平成 20 年度）

教養教育科目		学部		研究科	
開講部局	修得率	開講部局	修得率	開講部局	修得率
教養教育運営機構	83%	文化教育学部	89%	教育学研究科	97%
		経済学部	76%	経済学研究科	100%
		医学部	98%	医学系研究科	78%
		理工学部	77%	工学系研究科	92%
		農学部	88%	農学研究科	98%

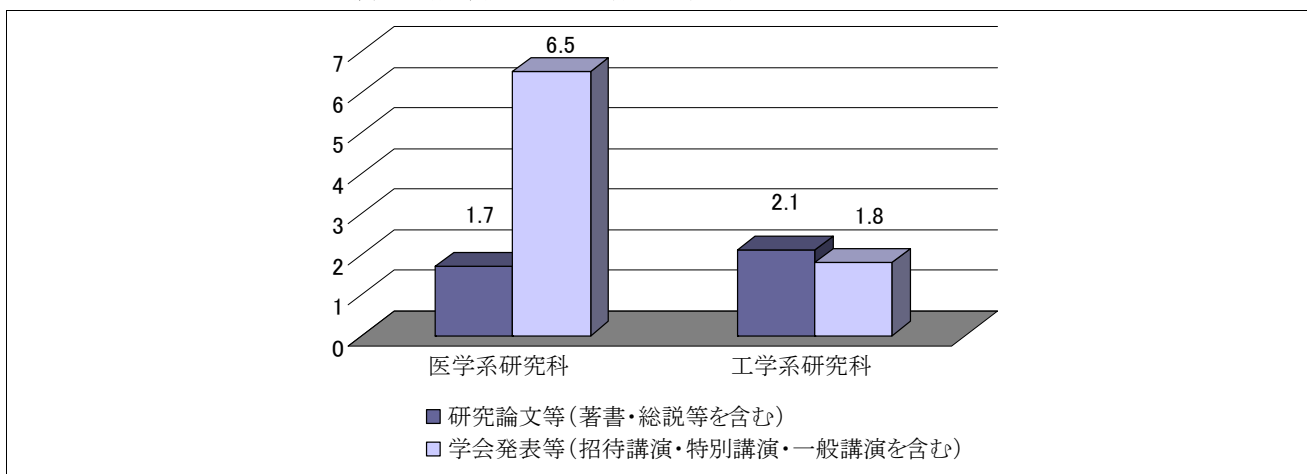
（出典：大学情報データベースより作成）

資料 6-1-②-B： 各種資格取得者数及び検定合格者数（平成 20 年度）



(出典：大学情報データベースより作成)

資料 6-1-②-C： 研究（主）指導教員一人当たりの大学院生による研究業績件数
（博士（後期）課程 平成 20 年度）



(出典：平成 20 年度教員報告様式データ等より作成)

資料 6-1-②-D : 博士（後期）課程の大学院生による受賞実績（学外）（平成 20 年度）

医学系研究科		
受賞者	賞の名称	表彰団体
萬年孝太郎	Travel Award	16th United European Gastroenterology Week
高橋宏和	Travel Award	16th United European Gastroenterology Week
Fujita T, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 3rd Asian Pain Symposium The Poster Award	The 3rd Asian Pain Symposium The Poster Award
青木茂久 竹澤俊明 内橋和芳 戸田修二	分子病理学研究会最優秀発表賞	第 27 回分子病理学研究会
工学系研究科		
受賞者	賞の名称	表彰団体
田端正明, Thiraporn Charoenraks	The Best Presentation Award	東京コンファレンス 2008 (日本分析化学会・日本分析機器工業会)
田端正明, Thiraporn Charoenraks	Hot Article Award	日本分析化学会

注) 下線は博士後期課程の大学院生を指す。

(出典：平成 20 年度教員報告様式データ等より作成)

参照資料 6-1-②-ア：佐賀大学成績判定等に関する規程

<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/seisekihantei.htm>

参照資料 6-1-②-イ：各学部規則

文化教育学部 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/bunkyo/kisoku.htm>経済学部 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/keizai/kisoku.htm>医学部 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/igakuhtm/kisoku.htm>理工学部 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/kisoku.htm>農学部 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/nogaku/kisoku.htm>

参照資料 6-1-②-ウ：各研究科規則

教育学研究科 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kyoikuin.htm>経済学研究科 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/keizaigakuin.htm>医学系研究科 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/igakukeiin.htm>工学系研究科 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kogakukeiin.htm>農学研究科 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/nogakuin.htm>参照資料 6-1-②-エ：佐賀大学学位規則 <http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/gakui.htm>

【分析結果とその根拠理由】

単位修得の状況は、全体を通じて良好となっている。また、資格取得に係わる分野では相応の資格取得者数があり、大学院学生による様々な研究活動の実績が報告されている。これらの状況から、各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）、資格取得の状況及び卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

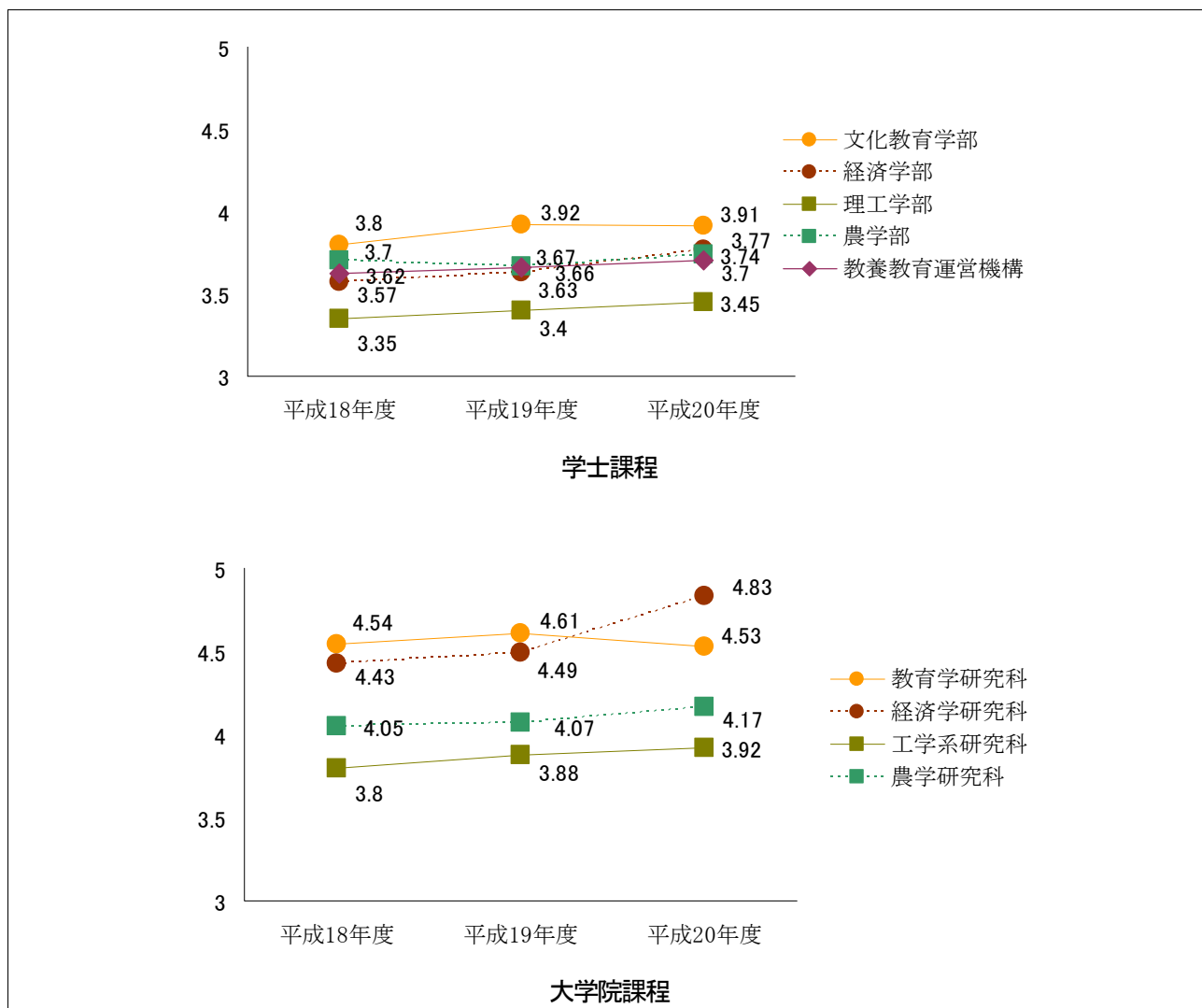
観点 6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

平成 13 年度から導入した学生による授業評価を、大学院課程を含め、すべての授業科目について実施している（資料 6-1-③-A）。また、教育活動の実態を調べるため、授業科目や教職員の対応に対する満足感等を尋ねる学生対象アンケート（別添資料 6-1-①-1【前掲】）、卒業・修了予定者を対象として卒業・修了時に修得した知識・技能等を尋ねる共通アンケート（資料 6-1-③-B）等を実施し、教育の成果や効果の検証・評価に取り組んでいる。

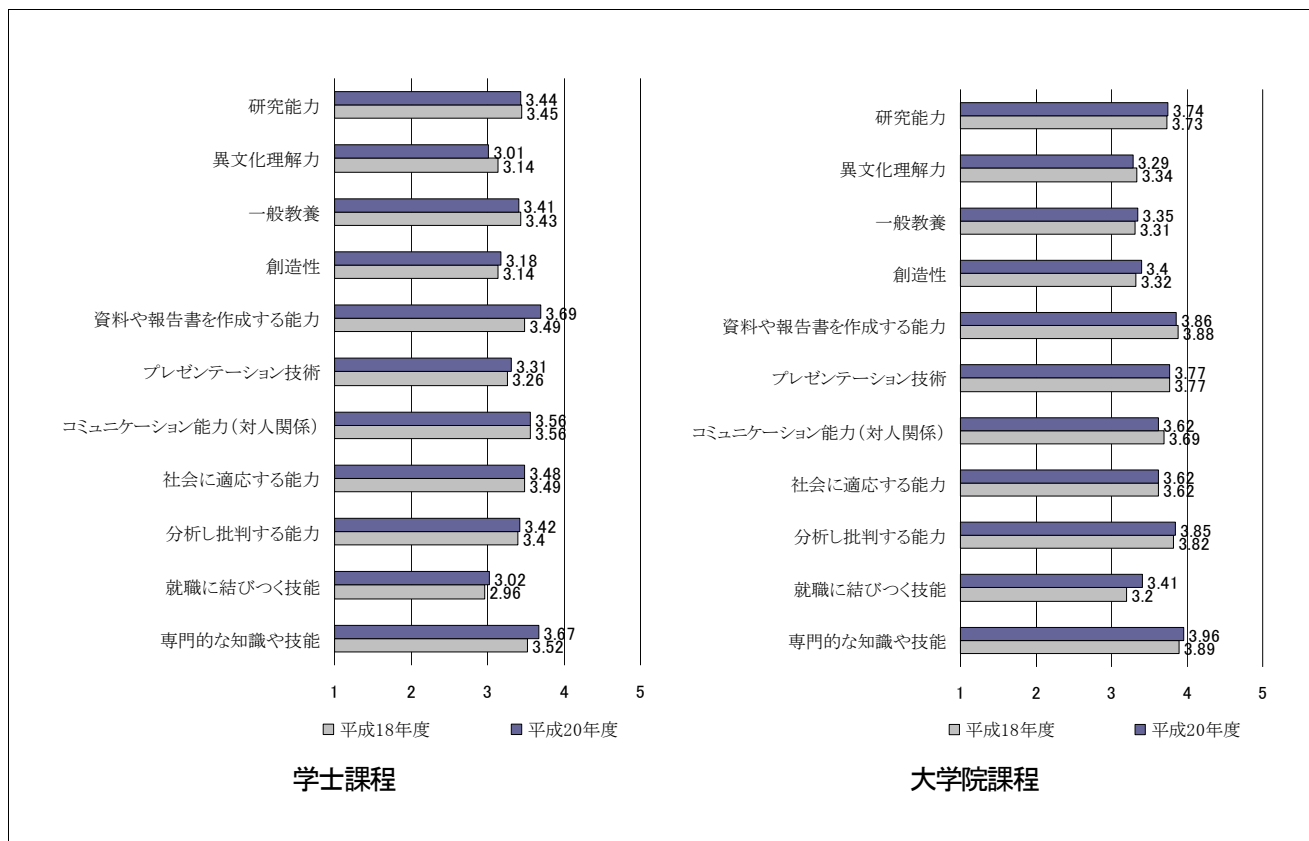
専門的な知識や技能、就職に結びつく技能、分析し批判する能力等、大学教育又は大学院教育を通して習得した知識や技能等は、平成 18 年度から平成 20 年度にかけて概ね改善され、すべて 1～5 段階で平均 3.0 以上の水準となっている。

資料 6-1-③-A： 「学生による授業評価」における授業満足感（5 件法）（平成 18～20 年度（後学期））



（出典：学生による授業評価報告書（平成 18～20 年度）より作成）

資料 6-1-③-B： 大学教育又は大学院教育を通して習得した知識・技能等（5件法）（平成 18，20 年度）



(出典：国立大学法人佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書より作成)

【分析結果とその根拠理由】

学生による授業評価をはじめ、学生が身に付けた資質、能力を検証・評価するため、さまざまな調査を実施している。学生による授業評価は、概ね良好な水準にあり、卒業・修了予定者が習得した知識・技能等に関する自己評価も、改善される傾向にある。これらのことから、授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

平成 20 年度卒業（修了）者のうち、学部卒業者の 67.3%，大学院修了者の 79.1%が就職しており、就職先として主な業種は、それぞれの学生が修得した専門分野を活かして、国家公務員・地方公務員，教育・学習支援，医療福祉，製造業，情報通信業等となっている。医学部の場合，就職を希望する卒業生の 100%が医療職に就いている。進学率については，学部卒業者の 23.7%，大学院修了者の 5.8%となっており，本学の研究科又は他大学の研究科へ進学している。理工学部では，卒業生のうち約 45.6%が進学している（資料 6-1-④-A）。これまでの卒業（修了）生については，本学広報誌「かちがらす」にシリーズで掲載している「活躍する佐大OB」が示すように，社会の様々な分野で大いに活躍している（参照資料 6-1-④-7）。

なお、学部卒業者の9%、大学院修了者の15.1%が就職、進学以外となっている。これは、就職浪人も含めて、様々な理由によるものである。

資料6-1-④-A： 佐賀大学卒業（修了）生の就職状況（平成20年度）

卒業生の進路状況 EMPLOYMENT AND ADVANCED EDUCATION									
学部等 Faculties, etc.			性別 Sex	卒業・修了者数 Graduates	就職内訳 Employed			進学 Graduates Schools Students	その他 Others
					民間企業 Companies	教員 School Teachers	官公庁 Public Servants		
文化教育学部 Culture and Education	男 Male		79	27	17	6	10	19	
	女 Female		175	88	38	10	18	21	
	計 Total		254	115	55	16	28	40	
経済学部 Economics	男 Male		171	127	0	19	9	16	
	女 Female		116	97	0	8	1	10	
	計 Total		287	224	0	27	10	26	
医学部 Medical	男 Male		59	47	0	3	4	5	
	女 Female		110	93	0	7	4	6	
	計 Total		169	140	0	10	8	11	
理工学部 Science and Engineering	男 Male		493	193	10	16	242	32	
	女 Female		62	38	5	3	11	5	
	計 Total		555	231	15	19	253	37	
農学部 Agriculture	男 Male		85	47	0	2	28	8	
	女 Female		87	56	2	8	14	7	
	計 Total		172	103	2	10	42	15	
計 Total	男 Male		887	441	27	46	293	80	
	女 Female		550	372	45	36	48	49	
	計 Total		1,437	813	72	82	341	129	
大学院 Graduate Schools	教育学研究科 Education	男 Male	24	7	3	2	4	8	
		女 Female	29	6	8	0	1	14	
		計 Total	53	13	11	2	5	22	
	経済学研究科 Economics	男 Male	5	2	0	0	1	2	
		女 Female	7	3	0	0	1	3	
		計 Total	12	5	0	0	2	5	
	医学系研究科 (修士課程) Medicine	男 Male	11	5	2	0	3	1	
		女 Female	17	9	5	2	1	0	
		計 Total	28	14	7	2	4	1	
	医学系研究科 (博士課程) Medicine	男 Male	10	4	6	0	0	0	
		女 Female	10	8	0	2	0	0	
		計 Total	20	12	6	2	0	0	
	工学系研究科 (博士前期課程) Science and Engineering (Master's Course)	男 Male	177	166	0	1	5	5	
		女 Female	19	14	1	0	1	3	
		計 Total	196	180	1	1	6	8	
工学系研究科 (博士後期課程) Science and Engineering (Doctoral Course)	男 Male	22	7	2	0	0	13		
	女 Female	4	0	1	0	0	3		
	計 Total	26	7	3	0	0	16		
農学研究科 Agriculture	男 Male	23	16	0	2	2	3		
	女 Female	20	13	0	2	3	2		
	計 Total	43	29	0	4	5	5		
計 Total	男 Male	272	207	13	5	15	32		
	女 Female	106	53	15	6	7	25		
	計 Total	378	260	28	11	22	57		
合計 Grand Total	男 Male	1,159	648	40	51	308	112		
	女 Female	656	425	60	42	55	74		
	計 Total	1,815	1,073	100	93	363	186		

(出典：大学概要 ウェブサイト (<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/g17.pdf>))

参照資料 6-1-④-ア：広報誌「かちがらす」 ウェブページ (<http://www.saga-u.ac.jp/koho/index.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学部卒業者の約 90%，大学院修了者の約 85%が，就職（学部 67%，大学院 79%）又は進学（学部 24%，大学院 6%）しており，就職・進学先は学部・研究科の教育目的に掲げる専門領域の特性ににんじたものとなっている。これらのことから，教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった進路の状況等から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や，就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

各部局の教育の目的等にんじて，小中学校の教員，企業，病院等を対象としたアンケートを実施するなど，関係者から意見を聴取し，教育の成果や効果を検証・評価している（別添資料 6-1-⑤-1）。意見聴取の結果から，本学の卒業（修了）生に対して概ね専門的知識や職場への順応性等の点で良好な評価が得られている（資料 6-1-⑤-A）。

資料 6-1-⑤-A： 本学の卒業（修了）生等に対する評価例（部局例示：農学部）

Ⅲ、有効回答企業による佐賀大学農学部卒業生に対する採用時点での評価

有効回答企業は佐賀大学農学部卒業生・修了生に対し採用時点で次のような評価を行っている。

- ①採用時点での「専門基礎の知識や能力」について、68社中、「満足」（46社）、「非常に満足」（6社）とその割合は両者で77%と高く、一方、「やや不満足」（6社）、「不満足」（0）であった【問4】。
- ②採用時点での「実験などの基礎技術」について、68社中、「満足」（43社）、「非常に満足」（5社）とその割合は両者で71%と高く、一方、「やや不満足」（6社）、「不満足」（0）であった【問5】。
- ③採用時点での「外国語能力」について、68社中、「満足」（28社）、「非常に満足」（2社）であった。一方、「やや不満足」（19社）、「不満足」（2社）であり、「不満足」の割合が比較的高い【問6】。
- ④採用後、「職場環境への適応」について、68社中、「適応」（39社）、「よく適応」（17社）とみておりその割合は高く、一方、「やや適応していない」（1社）、「適応していない」（0）であった【問8】。
- ⑤採用後、「会社への貢献」について、68社中、「貢献」（44社）、「非常に貢献」（9社）とみておりその割合は高く、一方、「やや貢献」（4社）、「貢献していない」（0）であった【問9】。

（出典：平成17年度企業アンケート調査結果報告書より抜粋）

別添資料 6-1-⑤-1：学部・研究科の「現況調査表（教育）」（観点 5-2 関係者からの評価）

（参考：<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1619/H1619hyouka.htm>）

【分析結果とその根拠理由】

卒業（修了）生の就職先企業，医療機関に対するアンケート調査の結果から，大学教育を通して身に付けた知識，能力等が，企業や医療機関等から期待される水準を達成しており，教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 高等教育開発センターと大学教育委員会が連携して教育改革を推進するとともに、大学が定める学生が身に付ける資質・能力、養成しようとする人材像に照らして、様々な方法で達成状況を調査し、ステークホルダーから良好な評価が得られている。

【改善を要する点】

- 卒業（修了）後の進路状況が、就職や進学以外になっている者が一定数おり、また、経済不況の急激な拡大による内定取消等の社会情勢を踏まえ、キャリア教育の強化を図っていく必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

学業の成果に関して、単位修得状況、卒業論文（学位論文）、卒業（修了）状況、資格取得状況、就職状況などの各種の指標や在校生、卒業・修了予定者、就職先関係者等による評価をもとに、大学教育委員会、部局教務委員会、FD関連委員等において分析し、各部局及び大学の自己点検・評価体制により評価を行い、自己点検・評価報告書として公表しており、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われている。

在校生、卒業・修了予定者を対象とした各種アンケート結果では、「専門的な知識や技能、就職に結びつく技能」、「分析し批判する能力等」、「大学教育又は大学院教育を通して習得した知識や技能等」が、平成18年度から平成20年度にかけて概ね改善されている。また、単位修得の状況、学生による学会発表・論文発表の実績など、教育の成果や効果が上がっている。

平成20年度学部卒業者の約90%、大学院修了者の約85%が、就職（学部67%、大学院79%）又は進学（学部24%、大学院6%）しており、就職・進学先は学部・研究科の教育目的に掲げる専門領域の特性に応じて、国家公務員・地方公務員、教育・学習支援、医療福祉、製造業、情報通信業等となっている。企業、病院等を対象としたアンケートによる関係者からの意見聴取の結果、本学の卒業（修了）生は、専門的知識や職場への順応性等の点で良好な評価を得ている。